

## 須山邦昭さんを偲んで

「みどり・山梨」代表 川村晃生

須山邦昭さんが亡くなられて、10月19日に、甲州市のやすらぎホールで、しめやかに葬儀が執り行われた。生前のご厚誼と、みどり・山梨へのご協力にかんがみ、謝意をこめて須山さんのことを記しておきたい。

2004年夏の参議院選挙で、中村敦夫さんが「みどりの会議」から立候補された時、それを応援するための地方組織を作ったことが、須山さんと親交を深めるきっかけになった。中村さんは、残念ながら当選に至らなかったが、その時に集まった各地のみどりの人々が、それぞれの地域でみどりの活動をあらたにスタートさせようと動き始めた。それが「みどり・山梨」の出発点である。

2005年8月に、中村敦夫さんを招いて甲府市湯村のホテルで講演会を催し、その会をもって「みどり・山梨」の結成の記念とした。須山さんが自ら事務局長を引き受けるので、私に代表をとということで、ともかくスタートさせた。

＜山梨に環境政党を＞というスローガンのもとさまざまな選挙に挑んだ。2007年1月の山梨県知事選、2007年4月の山梨県議選と甲府市議選、すべて苦杯をなめたが、これらの選挙は須山さんぬきには考えられないものであった。よく通る声でマイクを握り、候補のアピールに熱心で、寒さにもめげぬ体力で選挙戦を引っ張って下さった。

またご自身も2005年11月の甲府市長選に出馬された。無投票で市長が決まるのはよくないという思いで、周囲の懸念にも心を砕きつつ、ともかくこの選挙には全力投球をした。須山さんの政治的な良心と信念が、最もよく表われた選挙だったと思い起こされる。

「みどり・山梨」は、現在の事務所ができるまで、正式な事務所はなかった。毎月の定例会は



すべて甲州市の須山事務所（清水寺内）で行われた。まったくお邪魔なことであつたろうと思うが、お気軽に快く貸していただいた。何とそれで助かったことか。

またNGOとしても、政党としても、情報発信は必須である。すべての印刷は、須山さんの印刷機をお借りして刷り上げた。この印刷機なしには、私たちの活動はなし得なかつたであろう。これもほんとうに有難いことだった。この印刷機は、譲り受けていま「みどり・山梨」の事務所にある。

いつも真摯にものごとに取り組み、決して信念を曲げず、僧職にあられたということもあろうが、常に穏やかに私たちと接してくれた須山さんであった。これまでの「みどり・山梨」の活動を振り返る時、ほんとうにいろいろなところで須山さんに支えられていたと思う。全員を代表して、感謝の念を捧げたいと思う。ありがとうございました。

須山さんが亡くなられ、まもなく川村が代表を退く。「みどり・山梨」の始発期が終わりを迎え、新しい段階に入ろうとしている。須山さん、これからの「みどり・山梨」の活動をどうぞお見守り下さい。そして安らかにお眠り下さい。 合掌

2016年10月25日